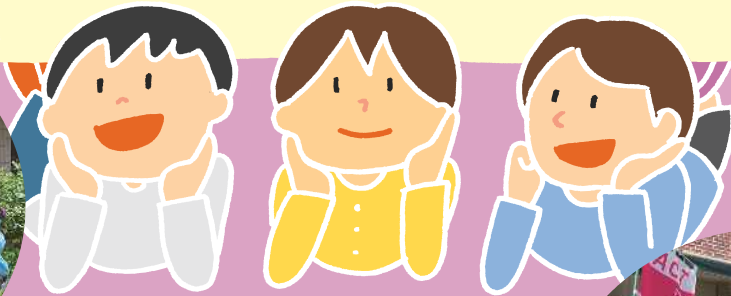


ひと あい えどがわ

江戸川総合人生大学は、「地域のために自分の力を活かしてみたい」という方を応援するため、江戸川区が開設した大学です(学校教育法で定める正規の大学ではありません)。

2023.3
No. 49

子ども食堂



「子ども食堂」では、栄養バランスのよい食事を食べてもらうことはもちろんですが、遊びや学習、多世代との交流などができる場づくりをしています。子どもたちが元気に明るく、安心して過ごせる地域をつくるため、当大学の学生や卒業生も活動に参加しています。



安曇野の市民団体と交流

安曇野市で活躍する4つの団体から熱のこもったプレゼンテーションをいただき、一同感動!さらにグループに分かれて直接活動内容を聞き、意見交換を行いました。



「やまこの学校」

やまこ(かいこ)を観て、聞いて、さわって知る



「やまこ=天蚕」の飼育から作品作りまでを行い、多くの人に伝えて、230年余りの歴史を誇る伝統文化を引き継いでいく活動をしています。やまこの学校では連続講座(10回)を通して生態や飼育林の環境整備などを学びます。



「あづみの樹楽会」

里山を市民が親しみの持てる場に
(安曇野市里山再生計画「さとぶろ」)



かつて里山は人々の暮らしとともにありました。麓では畑を耕し、山の中では薪を取り、キノコを採り…人が入ることで林道ができ、里山のなかは明るく保たれていました。そんな里山の再生の一環として、伐採した木を使って薪の活用やペン・木工品(ふるさと納税謝礼品に掲載)、桜の苗の育成・植栽等、安全に楽しく無理なく活動しています。



「NPO法人 あづみ野風土舎」

知恵と工夫で、大好きなあづみ野を元気に

環境にも心にも優しい「緑のカーテン」を広げる活動を16年前から行っており、琉球朝顔オーシャンブルーやゴーヤの育て方講座を開催しています。皆で好きなことをして地域を盛り上げようと、安曇野民話を大型紙人形劇で公演したり、紙芝居に太鼓の効果音を入れて演劇のように読んだり、劇団から演技指導を受ける事もあります。



「岩原の自然と文化を守り育てる会」

気づいて探そう地域のタカラ、眠れるタカラを後世に

岩原区の自然や文化財を保全し、その価値等を外部に発信し、地域振興につなげていく活動をしています。岩原の人口600人で60名が会員です。西山山麓で絶滅危惧種のオオルリシジミとその食草であるクララの保護に向けて日本自然保護協会や研究者と連携して保護活動を行っています。誰でもできる範囲で気楽に参加できる地域の活動です。





18期生が新しい仲間と旅して学ぶ 安曇野宿泊研修

2022年11月14日～15日、昨年に続き2回目となる宿泊研修が、江戸川区の友好都市である長野県安曇野市の江戸川区立「穂高荘」で行われました。10月に入学した18期の60名が参加し、安曇野市の魅力や江戸川区の取り組みなどを学びました。



北野大 学長の激励とともに

出発！

秋も深まり、冷え込んだ朝、総合文化センターに集合。皆さん「信州も寒いんだらうなあ」と覚悟のご様子。コロナ禍でご無沙汰していた「はとバス」にうれしくなり、緊張とワクワクの両方を胸に、出発！

はとバスで行く
1泊2日の旅



すがすがしい信州の里山風景の中

大王わさび農場で昼食

学生同士の
交流も活発に

安曇野名産の
わさびたっぷり
昼食に感激。



食事も温泉も満足の宿

江戸川区立 「穂高荘」に到着

歴史ある神社

穂高神社



スタッフのみなさん
のお見送りに感激！



地元の歴史に触れ
すっかり安曇野ファンに！

齊藤 猛 区長 による講義「えどがわ入門」 「発展を続ける江戸川区」

- 人と人がささえあい、「ともに、生きる。」
- 変わりゆく まちなみ ～さらに安全・安心なまち～
 - ・ 住宅の耐震化
昭和56年5月末以前の建築住宅の97%完了(23区でトップ!)
 - ・ 非常時の備え
公園にマンホールトイレや井戸、かまどベンチを整備
 - ・ 犯罪件数の減少
平成12年18,275件から毎年減少 令和3年は3,369件で、戦後最低に!
 - ・ 教育の環境
小中学校の冷暖房付き校舎への建て替えを、毎年3校ずつ計画的に進行
学校は、災害時の避難所になるよう防災機能を強化
- 人生100年時代～生きがい
 - ・ 図書館の充実
区立の12カ所に加え、5つの学校を区立図書館サテライトに
 - ・ スポーツ資源の活用
東京2020パラリンピックの全22競技を誰もが楽しめるように整備
 - ・ スポーツコンシェルジュ(7のスポーツ施設)だけでなく、
文化コンシェルジュ(16の文化施設)も整備
- 子育て
 - ・ やさしい道づくり
車椅子・ベビーカーに対応し、歩道巻き込み部の段差ゼロを87.7%に
 - ・ 待機児童の減少
平成30年には440人だった待機児童が、令和4年はゼロに
- 公園
 - ・ 公園の整備
都立公園も含めて区民1人当たりの公園面積11.3㎡、樹木10本で目標達成。親水公園は5か所で、総延長10,000m
 - ・ 児童文学館開設
『魔女の宅急便』作者 角野栄子氏の「魔法の文学館」が今年オープン



かまどベンチ(普段はベンチに使用)



歩道巻き込み部の段差ゼロ



なぎさ公園に令和5年11月開設予定

■ 講義を聞いた感想は…

江戸川区の歴史(なんと弥生時代にさかのぼる超大作)、発展、水害との闘い、安全・安心(犯罪件数8割減は23区No.1)、文化とスポーツの充実、一人当たり公園面積へのこだわり、子育て、外国人を大切にする…など、これから江戸川区が目指す**地域共生社会への思い**をたっぷり語り尽くしていただきました。

お話をきいて
江戸川区民でよかった!
という受講生の声があがりました。

応援したい、手伝いたい、始めてみたい

教えて！子ども食堂



えどがわっ子食堂ネットワークでお話しをうかがいました。

Q. 子ども食堂のお手伝いをしたいのですが…

子ども食堂はボランティアの皆さんのあたたかい思いでできています。料理の準備や後片付けだけではなく、子どもたちとお話をしたり、遊び相手になったりします。手伝っていただける曜日や時間がありましたら、ぜひ、お声がけください(コロナ禍でご希望に沿えない場合もあります)。



Q. 子ども食堂に食材を送りたいのですが…

事務局に事前にご連絡のうえ、事務局に郵送またはお持ち込みください。未開封、賞味期限の明記(3ヵ月以上先)、生鮮食品以外(保存可能なものは応相談)など条件があります。いただいた食材は各子ども食堂で共有するほか、フードパントリーに提供し、食材の必要な家庭へ提供します。

Q. 子ども食堂を自分でやってみたいのですが…

子ども食堂が地域にたくさんできれば、たくさん子どもたちに食事の機会を提供できます。子ども食堂を始めたいと思う方はぜひご相談ください。運営方法や衛生問題、保険の加入など必要な情報、ノウハウを提供しています。子ども食堂の見学の案内もしています。



学びの楽しさを知った公開講座

「生きがいは仕事」のような生活を送っていた私は、毎日趣味だけで過ごせるのか、と退職後の日々不安がありました。忙しい合間に行っていた海外旅行もままならぬ状況が続く中、パソコンを開き、何気なく目にしたHP



【「えがおで日本語サロン」外国の方に日本語を教える】に興味を持ち、問い合わせました。「英語が話せなくても大丈夫」とのことなので、対面での教室が再開されるのを待って伺いました。

そこで教えていただいたのが、江戸川総合人生大学公開講座【「日本語の音の話」外国人にとって日本語はどんな音?】講師 田辺邦子氏です。

授業の中で、切手(kitte)のようにつまった言葉や、日本(nihon)のように最初のnと後ろのnは発音が変わるなど、外国人にとって日本語は難しいことが理解できました。実際に自分の名前を言いながら、日本語のアクセント(高い低い)について、手を上下にさせて表現しました。何気なく話している日本語をあらためて見つめ直すことができ、2時間の授業があつという間でした。学生時代には感じたことのない学習の楽しさを知り、人生大学への入学を決めました。

10月にまちづくり学科に入学し授業が始まると、『『えどがわの種』探し』で住民参加型のまちづくりをテーマに、実践活動を行っている団体等7カ所を訪問し、見聞を広めました。訪問先や大学での新たな出会いに刺激を受けて、今ではやりたいことが次々に…出来ることは始めています。大学ではペーパーレスの授業に向けて、生徒に1台ずつタブレットが渡されました。初めてタブレットを使う人が多く、私も講習会を何回も受けて習得しようと頑張っています。

江戸川まちづくり学科 18期生 白井たけ子

『ひと・あい・えどがわ』は、次号で50号を迎えます。そこで、読者のみなさんにアンケートを行います。右のQRコードからご協力ください。お願いします。
締切 2023年3月31日



同窓会の窓

江戸川総合人生大学同窓会は、様々な行事を通じ親睦を図り、大学で学んだ知識や経験を活かして地域で活動を行っています。現在、会員数は約430名、クラブ数は11団体、ボランティア連絡会への登録団体は45団体です。

今年も講演会、バス見学会、懇親会などの行事を活発に行い、同窓生同士の親睦を深め、一人ひとりが活躍できる場の提供を支援していきたいと考えています。

最近、ボランティア活動の場で「ありがとう!」との言葉を頂いたとお聞きすることが多くなりました。先輩方から現在に至るまでの同窓生の活動の成果が現れてきたのだと感じています。今後も地域に愛される同窓会を目指して活動してまいります。



同窓会会長 松浦松子

編集後記

ひと・あい・えどがわ49号をお読みいただきありがとうございます。ごさいます。

子ども食堂取材先の「地域の方が誰でも気軽に集える場所であり、新たなつながりを生むハブの役割を担ってほしい」という言葉が印象的でした。

多様性に満ちた地域連携の重要な基点として期待されているのです。さて次号は節目の50号。委員一同、手にとっていただける紙面を目指し、今回アンケートを実施しています。ぜひ皆様のご協力をお願いいたします。

福田裕子

編集委員 (◎=編集長 ○=副編集長)

◎花上憲司・真瀬健一(まち17)、大塚恭子・吉川敬吉(国際17)
佐藤晴美・○福田裕子(子17)、秋葉成人・池田正子(介17)
白井たけ子・成田光正(まち18)、斉藤順子・染谷信夫(国18)
片岡利子(子18)、川端一・木代紀美子(介18)

